

talk・talk・talk 第6回

GUEST
コンドルズ

CONDORS



© Arnold GROESCHEL

5月に開催されたコンドルズの埼玉スペシャル公演「太陽にくちづけ007 トゥモロー・ネバー・ダイ」は、連日大盛況のうちに幕を閉じた。終演後のトーク・イベント<talk・talk・talk 第6回>には近藤良平と勝山康晴が登場。当財団ダンスプロデューサー佐藤まいみのナビゲーターで、人気ダンス・グループの創作の秘密に迫った。結成10周年を迎えた彼らは今回、1996年のコンドルズ旗揚公演のタイトル「太陽にくちづけ」を再び使ったわけだが、そこには「昔をぶち壊したい」という思いをこめたという。観客との質疑応答の一部をここに紹介しよう。

近藤 皆さん、今日は本当にありがとうございました。それでは何か質問ありますか？

質問者A いつもステージに大勢の方が出ていますが、それをどうまとめているのですか？ 今日の劇中劇でも、勝山さんが「やーめた！」と叫ぶシーンがありましたら、実際のリハーサル中も似たような局面があるのです？

近藤 とても大事なのは、僕を含めてみんな忘れっぽいんですよ。だから怒ったり、やめたいと思っても、次の日には忘れている。だからコンドルズ結成から10年も続けられた気がします。僕は一応ボスですが、「まとめよう」と思ったことはないですね。

勝山 私はプロデューサーという立場上、ある程度まとめざるを得ないことはあるけど、これまで重視してきたのは、練習とか舞台の時以外はメンバーに会わない努力を徹底的にすることでした。フレッシュさを保つうえで大事ですね。

質問者B コンドルズを見ると一番印象に残るのが音楽です。選曲の仕方ですが、曲を聴いてイメージが浮かぶのか、それともダンスが浮かんでそれに合う音楽を探すんですか？

勝山 非常にアーティスト・トークらしい質問が出ました。

近藤 音楽は、ロック関係は勝山さんがセレクトし、民族チックだったり、ちょっと小さな音の曲は、ほとんど僕が選んでいます。勝山 そして基本的に振付が先ですね。曲に振りを付けたのは、昔から一度もないと言つていい。

近藤 これ、すごく大事なこと。世の中では曲が先行なことが多いのです。それだと本当に音しか聴こえてこないし、観ている人も、音を追いながら動いている人を観てしまう。僕は無音の世界が好きなので、はじめに無音の空間で振りを作り、そこ

に適当に音を流して「意外に合うじゃん」と思って付けていきます。生身の人間が、無音でもある程度動けるようになったところで音が鳴ると、観ている印象が変わってくるんです。コンドルズの照明を担当している坂本明浩さんも、練習のときには風景の全部の音を絞り、動きだけを見て照明プランを立てています。

勝山 音楽に負けないパフォーマンス、パフォーマンスに負けない照明、それらが拮抗するから、毎回感動的な舞台をお届けできるわけです（拍手）。

質問者C 休みのときは何をしていますか？

近藤 とても面白い質問ですね。僕は犬と散歩するのが本当に大好きなのです。あとは家のリフォームをしています。トンカントンカンするのが好きなんです。

勝山 アニメを見ています。日常生活で疲れたときには二次元の世界。次元が変わった瞬間に心が癒されるのです。

質問者C どんなアニメを見ていますか？

勝山 それを話すと止まらなくなるからやめた方がいいよ（笑）。

質問者D これからのコンドルズの野望は？

近藤 難しいですね……でも、とてつもなく大きいキャンピングカーは欲しい。メンバー全員で乗って、旗とかを立てて移動して、砂浜でバーンと公演をやったら気持ちいいだろうな。きっと実現しないけど（笑）。

勝山 コンドルズを続けていくこと。「打倒ローリング・ストーンズ！」で、65歳になってもメンバーの遺影を持ちながら踊り、ぶつ倒れてもやる、というのが目標ですね。あとは来年もさいたま芸術劇場で公演したいですね（拍手）。



昨年の熊谷会館のコンサートから

埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストランド！

昨年熊谷で大好評だった『夏休みオーケストランド！』がたくさんの熱い思いにこたえて、この夏休みに埼玉会館にやってくる。今年も「子どもたちから通な音楽ファンまで音楽を楽しんでもらいたい！」という願いとパワーに溢れるプログラム。また、埼玉県在住の小学生ピアニスト、尾崎優衣さんもモーツアルトの協奏曲で出演。その聴きどころを前回の思い出とともに、昨年に引き続き登場の指揮者・飯森範親さんが語ってくれた。

interview インタビュー

飯森範親

僕は素晴らしい音楽は、ロックだろうが演歌だろうが子どもたちの純粋な心に届くと思っているんです。

この東京交響楽団というオーケストラは、本当に子どもたちの心をつかむ気持ちで演奏しています。演奏は一方通行じゃないんですね。舞台上から見える子どもたちの顔を我々も感じています。子どもたちの顔がますますよくなるように思っている。そして実際にその顔が輝きだして来るのが伝わってくると、「よーし、もっと輝かせてやろう！」と思うんです。それができるのがこのコンサートですね。

一番最初のとっかかりは、《ウィリアム・テル》序曲から行進曲をやります。テレビでもよく流れるし、みんな「あっ、これ聞いたことがある」と思っている。それから2曲目はディズニーのメロディーを使った曲をやりますが、これは「音楽のディズニー・ランド」という感じなんです。なおかついろんな楽器の特色がこの1曲に入っていてね、凝っているんですよ。実はこの曲は、ブリテンの《青少年のための管弦楽入門》がもとになっている。ブリテンが1600年代のヘンリー・パーセルという作曲家のメロディーを使って、青少年に聴かせる管弦楽を作ったんです。そのパロディーなんですね。聴くとブリテンを知っている人は、なんだこれって思うと思いますよ。構成はそっくり。これを作ったのは、東京交響楽団から楽器を紹介する曲を作つてほしいという依頼を受けたコントラバスの小室さんですが、ものすごくよく出来ている。すごくいい曲です。去年のこのコンサートでも大好評でした。

去年の熊谷会館では、来てくれた子どもたちと一緒に演奏するコーナーでヴァイオリンを持ってきた子がたくさんいたんです。みんな立って弾いてくれてね、ちゃんと練習してくれていたんですよ。かなり会場が一体になった感じでした。子どもたちだけでなく一緒に来た親御さんもみんながコンサートに参加してくれるっていう感じで、それがすごく印象深かった。親子で楽しめる去年のコンサートの光景は、今でもよく覚えています。



© 平野 蘭

僕は何を感じてほしいかっていうより、子どもたちが感じることは千差万別だと思うんです。だからこちらから押しつけがましいことはないですけど、でもね絶対楽しいから！ このコンサートは絶対楽しい2時間だから、ぜひ来て楽しんで行ってほしいと思っています。

••••• MUSIC •••••

埼玉会館ファミリー・クラシック

夏休みオーケストランド！

【日時】8月5日(日) 開演 14:00 【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】飯森範親(指揮) 朝岡聰(ナビゲーター) 尾崎優衣(ピアノ) 東京交響楽団(管弦楽)

【曲目】ロッシーニ:歌劇《ウィリアム・テル》序曲より 小室昌広:ディズニーのメロディーによる管弦楽入門

モーツアルト:ピアノ協奏曲第23番 1長調 K.488より 第1楽章(ピアノ:尾崎優衣)

ウィリアムズ:スター・ウォーズ・メドレー

～指揮者にチャレンジ！～(公演当日、開演前に参加者募集、抽選)

ビゼー:歌劇《カルメン》前奏曲

～みんなで歌おう&演奏しよう！～(歌や好きな楽器でオーケストラと共に)

木村弓-映画「千と千尋の神隠し」より(いつも何度でも)

エルガー:行進曲《威風堂々第1番》ニ長調 Op.39

【チケット(税込)】好評発売中

一般 S席 大人4,000円 こども(中学生以下) 2,000円

親子セット(大人1枚+こども1枚) 5,500円

A席 大人3,500円 こども(中学生以下) 1,500円

親子セット(大人1枚+こども1枚) 4,500円

メンバーズ S席 大人3,600円 A席 大人3,150円

※3歳未満のお子さまのご入場はご遠慮ください。

※こども券、親子セット券は、埼玉会館・彩の国さいたま芸術劇場・熊谷会館にお申込みください。